

# —認め支え合う学級の実現に向けて—

支持的風土の醸成された学級づくりのためのハンドブック

## 「学校実践編Ⅳ」



令和8年3月  
広島市教育委員会

## ～はじめに～

令和4年3月に作成した「支持的風土の醸成された学級づくりのためのハンドブック」および、その後周知した別冊「実践編」「実践編Ⅱ」「実践編Ⅲ」では、支持的風土を育むための「仕組みづくり」「人間関係づくり」「教室環境づくり」などの考え方とともに、学校現場で取り組まれてきた多様な実践例を紹介してきました。これらは、児童生徒が安心して学びに向かうための基盤として、各校の教育活動の中で着実に生かされていることと思います。

支持的風土の醸成は、児童生徒が主体的に課題へ挑戦し、多様な他者と協働しながら創意工夫を重ねる経験を通して育まれるものであり、児童生徒の健全な成長・発達に不可欠です。

このような学びを支えるためには、学校だけでなく、児童生徒を取り巻く環境全体が一体となってこどもの成長を支える体制づくりが重要であり、学校・家庭・地域が連携して継続的に見守ることで、児童生徒が安心感を抱き、より豊かな学びと成長につながることも期待されます。その中で、学校と地域が一体となって学校運営を進める「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」の取組が広がり、地域の大人との関わりを通じて社会性を育む機会が増えています。地域に支えられているという実感は、児童生徒の安心感を高めるだけでなく、学校全体の風土をより温かく包容力のあるものへと導いています。地域ぐるみで支持的風土を育てることは、児童生徒が主体的に活動へ踏み出す力を支える重要な要素となります。

今回の「実践編Ⅳ」では、

- ①学校と地域が効果的に連携した取組
- ②児童生徒が主体となったいじめ防止の取組



にかかわる実践例を掲載します。地域との効果的な連携が、児童生徒の安全・安心な学校生活につながっている取組や、これまでの実践編と同様に、児童生徒自身が主体となり、学級や学校全体の支持的風土の向上に寄与している取組を紹介します。

各学校におかれましては、本ハンドブックに掲載した取組をぜひ参考としていただき、児童生徒一人一人が安心して学び、多様な仲間とともに成長できる支持的風土の更なる醸成につなげてください。



### 〈実践の目的〉

学校運営協議会を生徒と地域がつながる場として考え、学校の実態を生徒から発信したり、委員から地域の現状や地域行事の開催状況などの話を聞いたりする等、意見交換することを通して、生徒と地域がつながった教育活動を推進しています。

### ○ 学校運営協議会を活用した地域との連携

学校運営協議会①	地域の現状を知る。
学校運営協議会②	ボランティア活動の現状説明及び協議を行う。
学校運営協議会③	校則に係る説明（見直した項目等）をする。
ボランティア活動への参加	亀崎ふれあい運動教室
	倉掛公民館祭り
	倉掛地区防災訓練
	きずなプロジェクト 花渡し
	とんど祭り

#### 地域の現状の共有

小学校区の自治会長が生徒会執行部の生徒たちに、地域の住民のおよそ2人に1人が65歳以上の高齢者であることなど、少子高齢化の現状や地域行事の参加状況について丁寧に説明した。

生徒会執行部の中には、地域の力になりたいと考え、ボランティア活動への参加を強く決意する生徒もいた。



#### 校則について、見直した項目を説明

生徒会執行部が委員に校則見直しの内容を詳しく説明し、委員から寄せられた質問にも丁寧に回答した。生徒自身が主体的に発信したことで、生徒の意見を反映した校則の新たな考え方を学校と地域が共有することができた。学校のきまりについて、その内容や見直しに至った背景を、地域の方々へ分かりやすく伝える貴重な機会となった。



## 生徒朝会で学校運営協議会について報告

生徒会執行部は、生徒朝会で学校運営協議会で話し合った内容や意見を、全校生徒に報告した。学校の代表として協議会に参加した執行部は、学校の取組の発表や地域の方々から伺った話を丁寧に伝え、全校で共有できるようにした。

全校でよりよい学校生活をつくるための意識を高め、意見を共有する場としての生徒朝会を充実させることができた。



## ボランティアに参加する生徒



たくさんの人と交流できて、地域の人に笑顔をとどけることができた。社会貢献ができ、良い経験となった。

改めて、協力する大切さが分かった。地域の方の役に立てるのが嬉しかった。

高校生の方などと、一緒に協力できた。また、小さい子と接して「ありがとう。」と言われ、その保護者の方に、「あなたのおかげで私も楽しかった。うれしかった。」と言われたので、来年もやりたいと思った。私自身も楽しかった。

今回の活動を通して、地域の方々と一緒に深くかかわることができ、さらにコミュニケーション能力を身に付けることができた。



学校運営協議会に生徒会執行部が参加することは、生徒と地域が互いをよく理解し合い、協力しながら学校づくりを進めていくうえで、大変意味のあるものとなっています。生徒は地域代表から少子高齢化などの課題を直接聞くことで、地域の現状を身近なものとして受け止めるようになり、その気づきがボランティア活動への主体的な参加につながっています。また、生徒会が校則見直しの内容を協議会で説明し、委員からの質問に丁寧に答えることで、生徒の意見が学校運営に生かされていることを地域に知っていただく機会にもなっています。さらに、生徒会が協議会での話し合いの内容を全校生徒に共有することで、学校全体が地域と連携して取り組む意識を高めることができます。これらの一連の取組は、生徒の主体性や社会参画への意欲を育てるとともに、地域が子どもたちを見守り支える体制づくりにもつながっています。

地域と連携した、  
よりよい学校づくりに向けた取組

三入東小学校

〈実践により目指す姿（6年生の実践）〉

SDGs の 17 の目標の実現をゴールに設定し、学校や地域の願い（要望）から課題を見つけ、政治の仕組みや働きと結び付けながら自分たちができることに取り組むことを通して、主体的に社会に貢献しようとする姿勢を育てることを目指しています。

○ 学習計画及び活動

1. SDGs の実現に向けて、学校の取組を決定するプロセスを学ぶ。

政治の仕組みと関連付けながら、民主的な意思決定の在り方を体験的に学ぶ。

2. 学校や地域の要望を集めるための方法を考え、計画を立てる。

学校（児童、教職員）や地域（ボランティア、保護者）の願いを集める方法を検討し、インタビューや意見箱の準備を行う等の計画を立てる。

3. 社会の仕組みと政治の役割を学ぶ。

政治や社会の仕組み、議会の役割や議員の仕事について地元の議員から説明を受け、自分たちにできることを考える。

4. 学校や地域社会の願いに応えるための方法を自分たちで考え、実行する。

同じ考えや思いをもつ仲間であつくり、政策を考えて模擬選挙を行う。チーム内で協力したり、似た考えをもつチーム同士で連立して取り組んだりすることで、実行可能な計画を考えて活動を進める。

5. 政治的な意思決定のプロセスを実践する（模擬選挙・模擬議会）。

模擬選挙を通して、議論や投票のプロセスを実際に体験する。学校や地域社会の課題を知り、学校や地域社会に貢献する方法を考える。

6. 社会に貢献する意識を育む。

「みんなの願いを実現する特別授業」を行い、学校や地域に対してできることを考え、実行する。

○ 具体的な取組

①選挙運動について～実現してほしい取組を選挙で決めよう！～

- 1 目的 みんなの願いを実現させるために選挙活動を行い、民主的な意思決定の在り方を体験的に学ぶ。
- 2 選挙対象者 三入東小学校児童・教職員・保護者・地域の方
- 3 政党ごとの公約内容

政党	公約（SDGs との関連）
らくしゅうしんぱ 楽習進歩党	「楽しい授業で賢くなりたい」という願いを実現するために、みんなが楽しく学ぶことができるイベントを計画したり、普段の授業の仕方を変えたりすることに取り組めます！（SDGs4・8）
絆を深める 友好党	「大きなイベントをしたい」という願いを実現するために、全校児童で絆を深めるイベントを制作し、イベント開催に取り組めます！（SDGs16・17・5・8）
ゆうちゅうぶ 優仲歩党	「いじめがなく平和で仲良しな学校にしたい」という願いを実現するために、ポイント制を取り入れて、悪口・暴力がなかったクラスに賞をあげる取組を実行します！（SDGs16・5・8）
環境保全党	「地域や学校の清掃をしてほしい！」という願いを実現するために、みんなが楽しくなるような掃除法を考え、学校を含む地域全体のゴミ拾いや掃除に取り組めます！（SDGs12・11・8）

スポーツ 元気党	「外で元気よく遊びたい」という願いを実現するために、みんなが楽しめるスポーツ大会に取り組みます！（SDGs3・8）
元気 あいさつ党	「しっかり返事・挨拶をしてほしい」という願いを実現するために、挨拶・返事の呼びかけに取り組みます！（SDGs3・17・8）

※ 児童による特別授業では、選挙対象者の過半数の支持を得るために、連立政党として取り組みました。

### 3 選挙運動内容

- ① 政党ポスターの掲示
- ② 政党チラシの配布・たすきをつけて行動（休憩時間）
- ③ 各政党の公約説明

### 4 選挙の流れ

- ① 6年生選挙ポスター掲示
- ② 6年生選挙運動
- ③ 投票

地域の公共施設に投票箱を設置し、  
地域の方からの意見も反映する。



## ② 願いを実現する特別授業～全員参画の特別授業を通して願いをかなえる～

- 1 目的 学校や地域に対してできることを考え、実行することを通して、社会への貢献を自分事として考え、自分の生き方を社会との関わりに結びつけようとする力を養う。
- 2 対象 1年生から5年生までの全児童
- 3 内容

	特別授業 A	特別授業 B
取組	町も学校もきれいに！三入東クリーン大作戦	三入東っ子オリンピック
めあて	①掃除の正しい方法を知り、みんなで学校をきれいにしよう。 ②みんなで仲良く元気に挨拶とそうじをしよう。	運動の大切さを知り、実際に運動をすることで楽しさを知ろう。
政党	元気あいさつ党、優仲歩党、絆を深める友好党 楽習進歩党、環境保全党	スポーツ元気党、元気あいさつ党 絆を深める友好党、優仲歩党、楽習進歩党

#### めあての確認



#### めあての達成に向けて 学校全体で取り組む



#### 下級生が活動しやすいよう な6年生のかかわり



学校や地域の願いを集め、課題解決に主体的に関わる力を育成するために計画的に取り組んでいます。まず、SDGs への理解を深め、児童・教職員・地域から願いや要望を集める方法を児童自ら考えて計画を立てるとともに、地元の議員を招いた学習を通して政治の役割や意思決定の仕組みを学ぶことで、社会に参画する意識を高めています。そして、仲間と政党をつくり政策を考える模擬選挙や模擬議会に取り組み、協働して課題解決に取り組んでいます。本学習のまとめとして、「願いを実現する特別授業」を行い、児童が自ら考えた「学校や地域のためにできること」を実際に形にする経験を通して、社会に働きかける力を実感できるようにしています。自分の行動が周囲をより良くすることにつながる喜びを味わうことで、社会との関わりを主体的に築こうとする姿勢を育てています。

## 生徒会によるいじめ防止に向けた授業

瀬野川東中学校は、令和5年度から、執行部によるいじめ防止をテーマにした授業を計画、実施している。令和7年度、さらに良い授業にするために、執行部全員で広島市PTA協議会主催の「いじめ防止プロジェクト」に参加し、他校の取組実践や講演を聞いた。そこで学んだ内容をもとに、指導案、授業スライド、ワークシートを作成し、授業を実施した。

### ○ 「いじめについて考えよう」の内容

執行部が放送室から各学級に一斉放送し、作成したスライドとワークシートを使って、授業を行う。今年度は、Google フォームを使い、各班の意見を集約し、資料との比較を行った。

#### 【授業の概要】

	学習内容・学習活動
導入	① めあて、流れの提示 ② 現時点でいじめについてどう考えているかワークシートに書く（資料1の1）。
展開 25分	① いじめが起こる要因の資料（資料1の2）を提示し、説明する。 ② いじめに発展しやすい要因を5つ挙げてもらう（個人）（資料1の2）。 ③ グループにして意見を共有し、グループで多かった5つをGoogleフォームで送る（資料1の3）。 《集計中》 (1) 他校のいじめ対策を紹介する。 (2) いじめの種類について紹介する（「Aさんが数学の問題を一生懸命に考えていたところ友達が答えを教えてしまった。もう少しで答えがわかりそうだったAさんは泣いた。」という場面をいじめか考える。） (3) いじめアンケート以外の学校での取り組みを書かせる（資料1の《アンケート結果集計中に答えてください》）。 ④ Googleフォームの集計結果（資料2）を提示、全国の結果等と比べる。 ⑤ 結果を見て、私達が今からできることを書かせる。
まとめ 8分	① 授業後のいじめに対しての考えを、授業導入時の意見と比べて書く。 （例）私は今までいじめに対して〇〇と思っていたが、授業を受けて××と思うようになったため、今後△△していきたい。 ② 代議員がワークシート回収→執行部がワークシートを受け取りに行く。

### ○ 今年度の授業の特色

前年度までは、授業後にワークシートを集めて、執行部会で出た意見を集約し、後日、生徒朝会や生徒会新聞で報告をしていた。今年度の執行部は「もっと生徒の声をリアルタイムで授業に反映したい」と考え、Googleフォームを使って、班の意見を集め、その結果を、全国の結果と比較した。自校の結果もあることで、生徒が「自分事」として捉え、その後の活動も主体的に取り組んでいた。

### ○ 「いじめについて考えよう」後の取り組み

授業後の振り返りを、生徒朝会と生徒会新聞（資料3）にて行った。また、来年度のいじめ防止の取り組みとして、「あいさつ運動」やクラス内（特に小グループ）の交流を促進するためにSHRに「チャットタイム」という会話をする時間を設ける予定であり、そのための準備を行っている。

【資料1】当日使用したワークシート

1.現時点でのいじめに対する自分の考え

2.いじめの要因

対象	主な要因	定義	番号
加害者の要因	隠そうとする	いじめをする人がバレないようにしている。仲良しを装う	1
	加害者のポジション	加害者がクラスで上位の子、先生と仲がいい。	2
被害者の要因	助けを求められない被害者	相談や助けを求めることができない。親に心配を掛けたくない。	3
	悪くなると思っている	仕返しが怖くて言えない。被害者が隠す。	4
周囲の状況	字級、周囲の雰囲気	周囲が無関心。見て見ぬふり、面倒だと思ってしまう。	5
	次の被害者になる怖さ	次のターゲットになっていじめられてしまうのが怖い。	6
社会的な要因	いじめといじり	いじりなのかいじめなのかわからない。軽く考えている。定義があいまい。	7
	子ども社会の特性	子ども社会の狭さ、大人に相談しないという暗黙のルール。	8
	コミュニケーションの薄さ	子ども同士でコミュニケーションが取れない。	9
可視化	見えないところで起きている	トイレや学校外などの教師の見えないところで起きている。	10
		SNSなどの教師の見えないところで起きている。	11
			12

いじめに発展しやすい要因番号

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

3.班で意見の共有、グーグルのformで多かった5つを送る

4.結果を見て、私たちが今から出来ることは何でしょうか。自分の意見を書きましよう。

5.まとめ(現時点でのいじめの考えを1と比べて書く)

《アンケート結果集計中に答えてください》

いじめアンケートの他に、具体的にどんな取り組みをしたらいいですか？

【資料2】Google フォームの集計結果

班の中で多かった5つの要因を押してください。

157件の回答



【資料3】生徒会新聞の一部抜粋

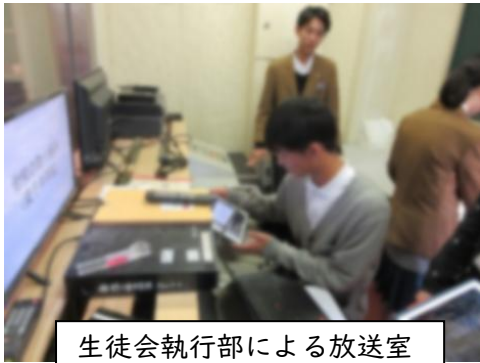
**いじめ防止授業**

みなさん、先日のいじめ防止授業に集中して参加してくださりありがとうございました。みなさんのアンケートを見させていただきましたが、どれもいじめに対して新たな考えをもっているようにみえました。この授業を通してこれからのいじめに対してどのように向き合っていくのかを考えていただけると嬉しいです。

○アンケート結果

(いじめ授業を通して考えた意見や案)

- ・いじめ防止のポスター作成
- ・見て見ぬふりをしない
- ・相手のことを考えて思いやりをもつ
- ・防犯カメラを設置する
- ・教育相談の頻度を増やす
- ・いじめの定義を一致させる
- ・多様性を日ごろから意識する
- ・いじめが起きない空気づくり
- ・悩みごと相談箱をつくる ↓ 生徒会



生徒会執行部による放送室からの配信



いじめが起こる要因について考える



グループで意見を共有



生徒が主体的に学習内容を企画・運営している点が大きな特色です。生徒会執行部が講演や他校の取組から学んだことを踏まえて全校授業を行うことで、受け手となる生徒は身近な仲間からのメッセージとして受け止めやすく、いじめの問題を自分事として考える機会になります。また、友人関係や日常の関わり方を見直し、自分にできる行動を考える機会となります。

さらに、Google フォームによるリアルタイム集計を活用し、班の意見を比較・共有したことで、生徒が自校の実態を主体的に捉え、振り返りや行動改善につなげています。授業後には朝会や生徒会新聞で成果を発信し、「あいさつ運動」や「チャットタイム」など継続的な取組へ発展させていることも効果的です。

## いじめゼロプロジェクト

### 〈取組の目的〉

全校生徒がいじめ問題を「自分ごと」として捉え、主体的に向き合う取組を行うことで、生徒が主体となって平和活動を継承し、多文化共生の学びの場を築くとともに、いじめ防止への意識を高め、誰もが安心して過ごせる学校づくりを推進する。

### 〈取組の概要〉

幟町中学校は、生徒会が中心となり平和活動を継承している。また、日本語指導拠点校として、多様な文化的背景をもつ生徒が互いに認め合い、ともに学ぶ環境づくりを推進している。

生徒会は、碑前祭や平和集会などの三大平和行事を軸に、世界から身近な生活まで、さまざまな視点で平和を考える活動を展開している。特に、生徒の提案から発足した「平和委員会」では、いじめ防止を重点に据え、アンケートによる課題整理や SNS トラブルへの注意喚起、3年生による体験共有などを生徒主体で進めている。

今年度は、日本 PTA 中国ブロック研究大会で生徒が自ら取組を発表したほか、11月にはアンケート結果を基に視聴覚教材を制作し、「いじめゼロプロジェクト」として生徒による授業を実施した。1月には、文部科学省が主催する「いじめ問題子供サミット」に生徒が参加し、学校の取組を発表した。

## ○ 生徒会が主体となった「いじめゼロプロジェクト」

アンケートの実施

生徒会平和委員会が、「グループライン上でいじめにつながると感じた経験」についてアンケートを実施し、次の授業で取り上げてほしい場面を尋ねる。

動画の作成

アンケート結果を踏まえ、平和委員会がグループに分かれてシナリオを作成し、動画撮影を行う。

生徒会による  
授業実施

平和委員が全校生徒に対し、いじめゼロプロジェクトおよびこれから行うワークの趣旨を説明した上で、作成した動画を視聴してもらう。その後、事前に配布したワークシートに、自分が感じたことを記入し、記入内容を学級ごとの班で話し合う。

振り返り

生徒会による授業実施後に、一人一人がこれまでのことについて振り返り、今後の学校生活に活かしていく。

### 【1年生】

普段の生活で人と関わるとき、相手が嫌な気持ちになることをしないようにするために、自分を客観視することで、いじめは減らすことができると思った。

### 【2年生】

いじめをしている人達の一番の問題は、自分がいじめをしているという自覚がないことだと思う。一度相手の立場に立って、自分が言われたらどう思うか考えることが大切である。

### 【3年生】

いじめた側は軽い気持ちでも、いじめられた側は、一生心の傷になることもある。同じ行為でも、人によって感じ方が違うので、相手がどう感じるかを考えるべきである。

いじめ問題子供サミット（文部科学省主催）において、学校の取組を発表した際に活用した、生徒が作成した資料

# ～ひとりをつくらない学校へ～

広島市立幟町中学校

私たちの目指すところ

## いじめゼロ

～みんなが安心して過ごせる学校づくり～

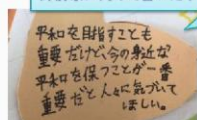
1回で終わりではなく、これまでの取り組みから次へ繋げていき、生徒全員が人との関わり方を意識できるようにしたい。そして、自信をもって平和を世界へ訴えたい。

私たちの願い  
いじめや差別が無く、  
一人一人が安心して過ごせる世界

ひとりぼっちがいない世の中  
笑顔あふれる世の中  
互いを尊重できる人間

### いじめゼロプロジェクト（きっかけと取組内容）

碑前祭に向けて書いた平和メッセージより



安心して毎日過ごすことができないのに、世界平和を訴える・・・？

<第1弾>  
各学級で起きている問題を出し合い、解決に向けての思いを発表する

生徒朝会  
平和委員から

人の持ち物を勝手に触らない

相手を侮辱するあだ名をつけない

いじめが起こる原因→相手がいやだと気づかない→いじめのシミュレーション動画を渡し、一人一人がいじめについて考えることができる

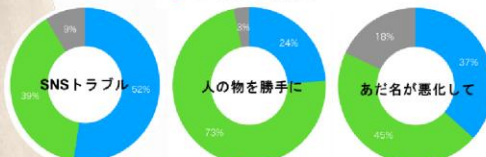
過去のことを再度にしない

<第2弾>  
授業で取り組む  
①平和委員がつくった動画を観る  
②どう感じたか話し合う  
③自分の行動を振り返る

そうだ！  
「いじめゼロプロジェクト」を、やってみよう！

### いじめゼロプロジェクト（アンケート結果）

● すこしいやなぎもち ● とても嫌な気持ち  
● 普通 ● 少しいい気持ち  
● とてもいい気持ち



意見  
・嫌われている感じがして悲しい。  
・空気読めない人は入れたくない。  
・取り返しがつかないもの。  
・かわいそう。  
・嫌な理由を言わないとわからない。  
・嫌がっているならやめるべき。

### 碑前祭



碑前祭の様子

碑前祭終了後、各学校の代表生徒で折り鶴の献納



広島市立広島工業高等学校制作  
折り鶴収納箱「折りの屏風」

### 折り鶴の碑 平和集会

佐々木禎子さんの命日に合わせ、各学年による平和学習の報告会などを行い、平和について考える日

研究主題

1年生「平和を知る」  
2年生「平和を考える」  
3年生「平和を創る」

発表テーマの一部

1年生「原爆の悲惨さを知ろう」  
2年生「平和公園でインタビュー」  
3年生「SNSと戦争～情報が生む影響」



### 世界で起きている問題

戦争・核保有国の現状・デモ、紛争・国同士の関係

私たちの学校には、中国、フィリピン、ネパール、インド、ウクライナ、ロシア、アメリカなど様々な国籍をもつ生徒がいます。

### 身近に起きている問題

けんか、暴言・暴力、いじめ、差別、犯罪、SNS

精神的不調を引き起こしたり、命にかかわる危険性もある



「原爆の子の像」のモデル・佐々木禎子さんの母校として、碑前祭や平和集会など三大平和行事を軸に、生徒会が主体となった平和活動を継続しています。また、日本語指導拠点校として、多様な文化的背景をもつ生徒と共に学ぶ環境づくりを進めています。生徒の声から発足した平和委員会では、いじめにつながる日常の行動について考え、SNSトラブルへの啓発、3年生の体験談を聞く場の設定、視聴覚教材を使った生徒による授業実践など、身近な平和づくりに取り組んでいます。

懇談会において、保護者に対していじめに関する正しい理解を促し、学校と家庭が協力していじめ防止に取り組む体制づくりを目指した取組を紹介します。

#### 〈実践の目的〉

保護者が、いじめの定義、学校いじめ防止基本方針の内容についての理解を深められるようにするとともに、いじめの対応は、学校と保護者の連携が大切であることを確認する。

#### ○ 取組の概要

- ・ いじめに対する正しい共通理解が図れるよう、いじめ問題に関する啓発資料「子どもの笑顔のために～いじめとはどんなもの～」(広島市いじめ問題対策連絡協議会)を視聴する。
- ・ いじめ防止対策推進法に基づき、いじめの定義について確認する。
- ・ いじめの定義が広範囲なものになってきた背景も確認する。
- ・ いじめは、どのこどもであっても、いじめの被害側にも加害側にもなり得るため、未然防止の対策や、早期発見の意識が必要であることを伝える。
- ・ 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見について具体的な取組を説明する。
- ・ いじめに関わったこどもへの指導や支援は、学校と保護者との連携が不可欠であることを確認する。



学校と地域・保護者が同じ理解を共有しながら、こどものいじめを未然に防ぎ、早期に気づき対応していくための取組です。懇談会では、いじめのとらえ方や背景、子どもを取り巻く変化を丁寧に確認し、「どの子にも起こり得る」という視点をもって保護者とともに考えます。また、学校の基本方針に基づく具体的な未然防止・早期発見の方法を紹介し、家庭と学校が協力してこどもを支えることの重要性を共有します。また、参加できない保護者にも学校便り等で情報を届けるなど、地域全体でこどもの安心につながる連携づくりを進めることが大切です。